

学校通信

6

2024 JUN.

第 253 号

学校生活における大切なお知らせです

学校長からのメッセージ

本校のグランドデザイン(※)に「育みたい生徒像」を5つ挙げています。その中のひとつに「客観的に物事をとらえる(批判的思考力)」があります。これは、クリティカル・シンキングとも言われています。語源は古代ギリシャ語の *kritikos* で、「見分ける、判断する、理解する」とあり、元は「理性を用いて考えること」という意味です。元々は「神様の持つ全知の力には及ばない人間が、神様に近づくために理性を用いて考えること」を指していました。

たとえば、友人から「子猫が10匹生まれた。今日中に飼い主を探さないと保健所で殺されるそうだ」とLINE が来たとしたらどうでしょう？子猫のために飼い主を探そうと、慌ててあちらこちらにそのLINE を転送する人もいるでしょう。でも「これって本当だろうか？」「発信源はどこだろうか？」と、一瞬立ち止まって考えてみる。

コロナ禍では、ワクチンや薬の効果、副作用など根拠のないうわさが流れ、私も不安になりました。今はSNS で情報が氾濫し、フェイクニュースも増えていますから、「簡単に何でも鵜呑みにしない」「常識や思い込みにとらわれない」ことも肝要です。

私たちの判断力や思考力は完全なものではありません。ですから、最初から「こんな話は信じたくない」とか、「こんな人は受け入れられない」などと、不信感や怒り、拒絶などで人や違う意見を否定するのではなく、そんな時こそ「自分の考えが足りないかもしれない？」と、出来るだけ別の角度からも見て、自分自身に問い、判断してほしい。それこそがクリティカル・シンキングの真の意味だと思います。

大切なことは、「なぜ自分はそう思うのか？」と自身に問うこと。その視点を持つと、他に見えてくるものがあると思います。私も自分にこの問いかけをしながら、できるだけ他者を理解しようとして日々過ごしています。

(校長 鍛治田 千文)

神の言葉は生きており、力を発揮し、どんな両刃の剣よりも鋭く、精神と霊、関節と骨髄とを切り離すほどに刺し通して、心の思いや考えを見分ける(*kritikos*)ことができる (ヘブライ人への手紙 4 章 12 節)

※YMCA 学院高校グランドデザイン <https://www.ymcagakuin.ac.jp/introduction/message.html>





今月の聖句

「すべて重荷を負って苦勞している者は、私のもとに来なさい。あなたがたを休ませてあげよう。」

(マタイによる福音書 11 章 28 節)

「じっくりと聴いてみる」

イエスさまのお言葉として、良く知られた一言ですが、実はこう続きます。「私のくびき軛を負い、私に学びなさい」。疲れ果てて、休息を求めてイエスさまの所にやって来ると、イエスさまは、軛（牛馬の首にあてて車をひかせる横木）を負いなさいと仰います。えっ？イエスさま、休ませてくださらないのですか・・・と、騙されたような気持ちになります。

もう一度、じっくりイエスさまのお言葉に聴いてみましょう。イエスさまは「私の軛を負い」なさいと仰っています。イエスさまの軛って何でしょうか。軛は、重荷を担うための用具（ツール）です。ここで、心に留まるのは、イエスさまが「軛」という言葉で、私たちの荷（苦しみ、辛さ、悲しみ）と一緒に担おうと考えてくださっているということです。イエスさまは、私たちと一緒に軛に繋がれるという決意をもって「私のもとに来なさい」と招いてくださる。

イエスさまは、私たちが再び立ち上がり、イエスさまと一緒に荷を負って歩いていくことができるように、力と励ましを与えてくださいます。しかし、決して焦る必要はありません。疲れた時には、先ずはイエスさまのもとで十分に休むことが大切です。そして、イエスさまのお言葉をじっくりと聴いてみましょう。その時、一人でなく、仲間と一緒にイエスさまの言葉について、あれこれと語り合ってみることでより豊かな発見があります。休養と勇気が与えられます。

(日本キリスト教団 奈良高畑教会牧師 藤川義人)

